

調査の背景・目的

- 東日本大震災による津波によって、東北地方の太平洋岸を中心に甚大な被害が生じたことから、今後、被災地において津波からの避難を想定した市街地の計画・設計が実施される予定
- 被災地の復興を進めるにあたり、津波からの避難等を想定した避難路や避難施設の配置及び避難誘導等の考え方を示し、自治体が防災・避難計画や市街地の設計を検討する際の参考となることが目的

調査成果

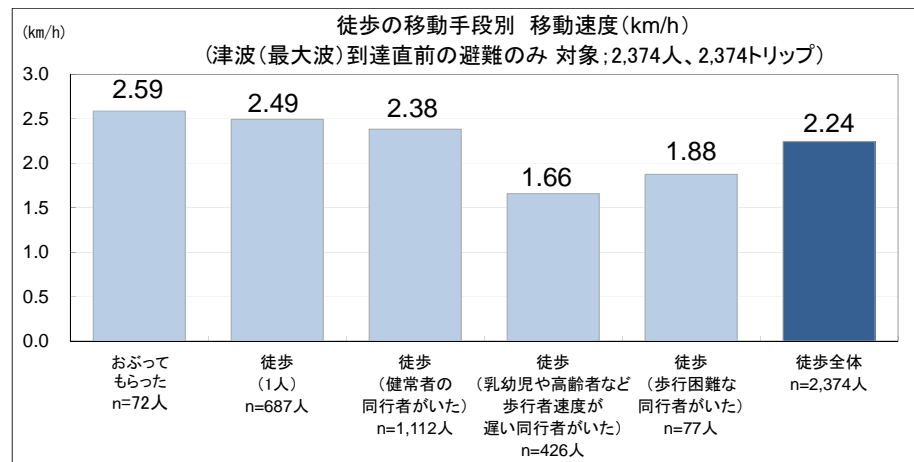
○ 津波からの避難開始時間

「来ると思った」人と「来ると思わなかった」人の平均避難開始時間差が8分であることから、津波が来ると思ふような危機意識の高い人を増やすことが、津波からの避難開始時間を早くすることにつながると考えられる。

項目	区分	対象者数	平均	50%の人が避難を開始した時間	80%の人が避難を開始した時間
全体		5,524人	22分後	14分後	34分後
津波への警戒	津波は必ず来ると思った	3,105人	18分後	14分後	29分後
	津波は来るかもしれないと思った	2,411人	26分後	24分後	42分後
	津波は来ないだろうと思った				
	津波のことはほとんど考えなかった				
差			8分	10分	13分

○ 津波からの避難速度

これまでの目安(3.60km/h、1.0m/s)より低いことを踏まえ、安全に徒歩での避難が可能となる避難場所の配置を考えることが必要であると考えられる。



検討内容

- 津波避難実態調査の分析
被災者に対してヒアリングした津波避難実態調査結果を用いて、避難の津波からの避難開始時間、避難速度等について分析
- 避難路、避難施設の配置、避難誘導等のあり方の検討
避難実態調査の分析から得られた知見を踏まえて、あり方について検討

調査の成果の活用

- 各地方公共団体において策定される津波避難計画ガイドライン等に活用されるとともに、具体的な防災計画や避難計画、復興市街地における具体的な計画や設計において活用されることを期待

